

教師の醍醐味

7月のある日、下校する子供たちを見送っていると、小学部のA君が近寄ってきて「つばめがいなくなった。」と教えてくれました。そのことに全く気付いていなかった私は「えっ!いないの?」と思わず聞き返してしまいました。これだけ読むと「何のこと?」と思われるかもしれませんが、私にとっては大変うれしく、また感心させられる出来事だったのです。

5月のある日、校舎の二階の渡り廊下の下に、つばめが巣を作っていました。一階の廊下が泥や草で汚れていましたが、親鳥が何度も何度も往復しながら巣作りの材料を運ぶ姿を見た私たち職員は「このままにしておこう」という結論に至り、廊下が汚れないように巣の下にトコ船を置いて見守っていました。私は校内巡視をしながら、その場所を通る時には巣作りの進捗状況を確認していましたが、時間が経つと少しずつ忘れ去っていました。そんな時に突然A君から掛けられた言葉で、改めて「つばめ」のことを思い出した次第でした。

実はA君は、つばめの巣作りの様子をタブレット端末で毎日記録していたそうです。だからこそ、昨日まで飛んでいたつばめの姿がないことに気付いたのです。「今度写真を見せてね」と言うと、A君ははにかみながら「うん」とうなずいてくれました。私は、興味をもって観察を続け、つばめがいなくなったことを、わざわざ私に伝えてくれたことに感激しました。

若い頃「子どもの目が輝いているときは、大人も輝いている」という言葉を何かで読んだことがあります。特別支援学校の教育は、一人ひとりの小さな「できた」「分かった」を大切に積み重ねていくものだと思っています。その「できた!」「分かった!」の瞬間に立ち会えることこそ、私たち教師の醍醐味だと、いつも思います。今年度、高等部が作ったパンフレットの表題には「私の『できた』がここにある」と書いてあります。とても素晴らしい表題だと思っています。日々の学校生活の中で、子どもたちの表情が「パッ」と明るくなる瞬間があると思います。実はその時、私たち教師の表情も、きっと輝いていると思います。子供たちが、一つでも多くの「分かった!」「できた!」を味わえるように、日々取り組んでいきたいと思っています。

